

地域の「宝」を語り継ごう

4月号

宇和島語り部発足プロジェクト

キャリッジ新聞

語り部

Instagram



令和6年1月13日(土)

『地域の「宝」を語り継ごう』ということで宇和島語り部発足プロジェクトが立ち上がった。

ファシリテーターに、大本敬久先生（県歴史文化博物館）をお招きし、宇和島市の「災害・文化・歴史」の継承活動をしている5団体が集まった。一般参加の方も含め、約50名の参加があり、初めに各団体の活動内容などを話してもらい、参加者の関心を深めた。どの団体もメンバーの高齢化により、語り継いでいくには後継者が最大の悩みのようだ。

またグループワークでは、宇和島の災害・歴史・文化が消えてしまわないよう今後の取り組みやアイデアについて話し合った。

『語り手の映像を残してはどうか？』『ポスターを作ってもっと広報してはどうか？』『ブラ防さんぽに参加したい』『参加したいイベントなのに情報が届いてこない』などの声があった。

参加者の方の意見を持ち帰り、今後はチラシやポスター、SNSなどで見かけることが増えてくるのではないのでしょうか。

今回ご参加いただいた団体

- 十本松峠の整備と復活の会
- 宇和島空襲を記録する会
- うわじま観光ガイド
- ブラ防さんぽ
- うわじま文化会議



能登半島地震募金活動

令和6年1月14日・20日・21日

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。現状では、被災地へ向かうことは難しく、私たちに何が出来るかを考え1月5日から『募金活動』を始めた。

その後、14日(日)は津島町の『てんやわんや市』と三間町の『道の駅みま』へ。20日(土)は『てんやわんや市』21日(日)は『道の駅みま』にて、団体・小・中・高校生と一緒に活動した。子どもたちの声かけで、小走りに駆け寄ってくださる方も多く、目に涙を浮かべる方も少なくなかった。

私たちも『平成30年7月豪雨』の際には、多くの方の力を借り、励ましていただき、助けていただいた。今後は災害支援にも向かいたい。石川県の方たちに、1日でも早く穏やかな日々が戻ってきますように・・・

令和6年2月24日(土)

体験型防災プログラム

うわじま防災BOX

盛り上げてくれたメンバーたち

防災グッズ展示



降雨体験 乗用車中泊避難 緊急地震速報音声体験

コスモスホールみまにて『うわじま防災BOX』が開催された。自衛隊の車両展示やVR体験。バックホーと記念撮影&操縦もできとても喜ばれた。ETPグループのキャンピングカー車中泊避難車両展示。降雨体験車・土石流3Dシアターがあり、ホール内ではスマホゲーム【重機でGO!】災害時に役立つ工作教室、ダム模型体験、NPOセンターホームページで販売している防災グッズの販売予約、水害時の歩きにくさ体験、パネル作り、地震速報音声・停電・トイレ体験、災害パネル展示等があり、どこからまわろうかと迷うほどだった。パラコード作りは人気で子どもから年配の方まで一生懸命に編んでいた。水害時の歩きにくさ体験では、水深30cmの負荷をかんじきブロック(両足で20キロ)で体験した。

歩きにくさ体験 工作教室 スマホでゲーム 自衛隊車両展示等 重機体験・撮影 ダム模型体験



命を守る・暮らしを守る

～障がいのある方の体験を通じて
普段から自分達ができることは何かを語ろう～



令和6年2月9日(金)
「第3回牛鬼ワークシヨップ」を開催。
『命を守る・暮らしを守る』をテーマに、
第1回目は「支援者のためのメンタルケア」
第2回目は「衣・食・住それぞれの役割につ
いて語ろう!」そして今回は「障がいのある
方の体験を通じて普段から自分達ができるこ
とは何かを語ろう」をテーマに、講師に「な
んよエリア視覚障がい者協会」代表松浦常
子さん・「宇和島福祉協会多機能型支援事業
所フレンド管理者」宇都宮克幸さんをお招
きし、「平成30年7月豪雨」の際に体験し
たことを話してもらった。松浦さんの被災体
験の中に、「土砂崩れで目が覚め、物凄い音
がしたが目が見えないから状況がわからな
かった。」「避難するときは主人の服の袖をつか
み必死でついていった。」「家族がいなかつ
た状況もわからず避難できなかったと思う。」「
という話があった。災害は、目が見えても怖
いもの。目を閉じただけでも部屋を歩くのが
どれほど怖いか。
続いて宇都宮克幸さんからは、当時の被
害状況から元の営業に戻るまでをはじめ、障
がいをもった方たちは災害が起こったよう
なるかを話してくださった。「防災無線や広
報車の音声情報を理解できない。」「電柱や塀
の倒壊、道路の亀裂など危険な状況が理解で
きない。」「など障がいによって苦手なことや
サポートの仕方が違うことを教えてくれた。
グループワークでは「この家族に何ができ
ますか?」という問いかけから【ケース1】
自宅が浸水し避難所に来た発達障害の親子。
【ケース2】避難所へ行かず自宅2階で生活
している発達障がい親子。実際に、障がい
を理由に避難所へ行かなかったという話もあ
った。「避難所へ連れていくのも大変だが、
慣れない環境でパニックを起こす可能性があ
る。」「こだわりが強く、食べられるものと食
べられないものがある。」「静かな空間や個室
が必要な場合がある。」「支援事業所などから
避難させるには人が足りない。」「など沢山の
意見が出た。普段からご近所などと顔が見え
る関係をつくり、防災リュックの中には「い
つも」の食べ物。

※愛媛県「愛リバー・サポーター制度」を活用しています。

主催：線香花火ナイトin宇和島実行委員会



第2回愛リバー活動

令和6年3月23日(土)

雨が心配される中、【第2回愛リバー活動】が開催さ
れた。吉田高等学校から先生&生徒12名、地域の方1
5名の参加があり朝10時から草集めやゴミ拾いを行い
可燃ゴミ122袋・不燃ゴミ1袋を回収した。
4月には綺麗な桜が咲く素敵な散歩道。ぜひ、皆さん
も足を運んでみてください。



100万人の 線香花火ナイト

令和6年3月11日(月)

今回で13回目となる「線香花火ナイト」は、
東日本大震災のあった2011年から岩手県を中心に
始まった。全国の会場をオンラインで繋ぎ、線香花火
を灯し、その優しい灯りを繋いで「お星様になった人
たちにも届けよう」という思いで活動をしている。小
雨が降る中ではあったが12名が黙祷をささげ、それ
ぞれの想いを胸に線香花火を灯した。開催時間は、星
の見える時間。会場は、あなたがいるその場所まで。
「大切な人に、想いを伝えられましたか?」



災害関連死を防ぐために注意すること 第2弾

～災害時になぜオールケアが大切なのか～

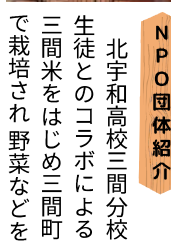
※本事業は「Yahoo! 基金 2022年度被災地復興調査助成」を活用しています

令和6年3月3日(日)
【災害関連死を防ぐために注意すること第2弾】を開催。
第1弾では「災害時のトイレ環境」と「エコノミー症候
群」についての話が合った。
今回は、令和6年1月1日に起きた「能登半島地震」の
被災地で実際に災害支援をしてこられた「四国災害ボラ
ティアネットワーク」代表の藤井さんに被災地の様子や活
動内容、現在のニーズについて話してもらった。
その後、「一般社団法人愛媛県歯科衛生士会」の清家さ
ん・川口さん・梶原さんから「災害時におけるお口とから
だの健康」について体験などを交えながら話してもらっ
た。「災害時になぜお口のケアが必要なのか?」「少ない
水・または水がない時のケアの方法」などを教えてもらい
実際にケア用品を使ってみた。誤嚥性肺炎の予防のため
平時からできる体操も教えてもらい、今日聞いたことを
家族や知人に伝えたいという感想もあった。



みまプロジェクト

北宇和高校三間分校
生徒とのコラボによる
三間米をはじめ三間町
で栽培された野菜などを
使用し、高校生を主体とした
【みまライスパバー】の開発
マーケティング、販売を行っ
ている団体さんです。いろい
ろなイベントに出店されてい
るので知っている方も多いの
ではないでしょうか?
私も何度かいただきましたが
ライスパバーが美味しいのは
もちろんのこと、活動してい
る生徒さんたちの笑顔もい
みなさん、見かけた際はぜひ食
べてみてください!



令和6年3月29日(金)
北海道から毎年吉田町に「みかん
ボランティア」に来てくれているご
夫妻が茶話会でそば打ちを。旦那さ
んは北海道虻田郡で「手打蕎麦 い
ちむら」の店主をしている。参加者
たちも本場のそば打ちを間近で見て
出来上がりを楽しみに♪
そば打ち体験もでき、そばを打つ
人・応援する人に分かれ盛り上った。
美味しいものを食べると自然と
笑顔が♡



茶話会